

障がい福祉の、華麗なる挑戦！

全6回（2013年9月から2014年2月）

全回受講 31,500 円（税込） 各回 6,300 円（税込）× 受講回数

※全回受講をおすすめしておりますが、ご都合のつかない場合は各回でもお申込みいただけます。

お申し込み、お問い合わせはHPから、またはお電話で

NPO法人 よこはま地域福祉研究センター（担当：吉川、佐塚）

<http://yresearch-center.jp/>

TEL 045-228-9117

〒231-0013 横浜市中区住吉町2丁目17番地 金井ビル201号室



特定非営利活動法人
よこはま
地域福祉
研究センター

Yokohama Community development Research center



特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

Yokohama Community development Research center

<http://yresearch-center.jp>

地域社会における問題を発見し、有する知識・情報を活かし、実践力を発揮することによって、地域福祉課題の解決を目指します。

事業紹介

☐ 調査研究

変化し続ける地域社会の現状を適切に認識することにより、課題を見出し、解決の道を探ります。

☐ 人材養成

福祉に携わる市民・専門職が、自らの取り組みに意義を持ち、必要な知識・情報・実践力を持てるよう養成事業を企画し実施します。

☐ ネットワーク構築

分野や立場の異なるネットワークや身近な地域における多様なキーパーソンのネットワークなど、解決する目的に合わせた構築の支援を行います。

☐ 福祉サービス評価

利用者一人ひとりの豊かな暮らしの実現を目的に、施設職員の方々と一体となって自己評価に取り組めるようサポートします。

講座企画にあたってのグループインタビュー



「現場で何がおこっているのか?」「この講座で何ができるだろうか?」

障がい分野で経験と実績のある皆さんに集まっていた
 だき、お話をうかがいました。

「福祉」の境界を超える考え方と取り組みの必要性、売
ることを目指した製品の作り方、売り方、売場所の開
拓、安定した利益の出し方・・・など、さまざまな問題
点についてざっくばらんに意見交換し、全6回のカリキュ
ラムを検証することができました。



確認

たのしく

戦略的に

即
チャレンジ

障がい福祉の、 華麗なる挑戦！

障がいのある人が地域で安心して暮らすために、
必要なことは介護などの福祉サービスだけではありません。
地域社会とのパイプ役としての作業所等福祉事業所の役割を
共有し、作業のマンネリ化や販売先の固定化などの悩み、
現状を変える「華麗なる挑戦」にともに取り組んでみたい方を大募集します。

日時 2013年9月～2014年2月 全6回 18:00～20:30

場 所 横浜情報文化センター 大会議室

みなとみらい線「日本大通り駅」3番情文センター口直結: JR・市営地下鉄「関内駅」徒歩10分

象の鼻テラス(第2回のみ)

みなとみらい線「日本大通り駅」出口1より徒歩3分



PHOTO : Katsuhiro Ichikawa

第1回 9月2日(月)

18:00 - 20:30

確認

障がい者の地域支援の基本的な考え方

講師：静岡福祉大学 健康福祉学科教授 西尾 敦史氏



内容

作業所での製品づくりや日中活動を考える前提として、政策の動向や障がい者の地域生活の実態、職員として必要なソーシャルワークの視点などを確認してみましょう。

講師コメント

障がいのある人は福祉サービスの世界だけで生きているのではないので、支援者は幅広い世界に興味を持ち勉強することです。地域の人たち、障がいのある人や支援者から教わってきた考え方や知恵というものを思いおこしながら、一緒に考える機会になればと思います。

第2回 10月2日(水)

18:00 - 20:30

会場：象の鼻テラス

たのしく

魅力ある製品開発、ビジネスデザイン①

講師：スローレーベル ディレクター 栗栖 良依氏



内容

企業と福祉施設のコラボレーションによる製品開発の実践報告を通して、障がいのある人も職員もわくわくするものづくり、ビジネスデザインの考え方について共有しましょう。

講師コメント

気づき溢れるひと時に！
既存の捉え方や考え方を捨てて、全く新しい角度から解決策を創造する。そんな気づきが、スローレーベルの取り組みから、象の鼻テラスで得られますように。

第3回 10月30日(水)

18:00 - 20:30

たのしく

魅力ある製品開発、ビジネスデザイン②

講師：地域作業所 カプカプ 所長 鈴木 励滋氏



内容

地域に根差しながら、常に新しい取り組みを創造する地域作業所カプカプの実践報告から、障がいのある人の価値を最大限に活かす工夫について考えます。

講師コメント

障がいのある人への評価を変えられるのは、わたしたち悩んでいますか？煮詰まっていますか？わたしも流されたくなったり言い訳してみたりは日常茶飯事です。だからこそ、弱気になったときにブレないための軸となるなにかを、一緒に探ってみましょう。

第4回 11月20日(水)

18:00 - 20:30

戦略的に

作る人と買う人をつなぐ、マーケティングの工夫

講師：中小企業診断士 為崎 緑氏／商業施設士 水谷 功氏



内容

作っても売れない悩みの解決策として、商品パッケージやディスプレイの技術、市場を見据えたものづくり、適正価格、適正販路の設定などマーケティングの基本を学びます。

講師コメント

福祉と経営は必ず両立できます！
『製造と販売』の意味をきちんと理解することが、作業所の運営に求められています。現場感覚を大切にしながら、新しいチャレンジをしてください。利用者も職員も笑顔になる工夫と一緒に考えましょう！（水谷氏）

第5回 12月16日(月)

18:00 - 20:30

戦略的に

実践のためのプランを立てよう①

講師：城西国際大学 環境社会学部 教授 福田 順子氏
社会福祉法人杜の会 SELP 杜 寺下 洋平氏



内容

事業計画と個別支援計画の組み合わせによる運営、事業所の体制作りなど実務的な知識を身につけ、自身が解決したい課題を明確にしましょう。

講師コメント

課題を整理・分析し、解決の道筋を見つけよう！
多くのイノベーションは業界外、組織外から生まれています。是非、福祉の世界を外から見つめなおし、発想転換、新しい知恵・スキルを積極的に身につけて下さい。（福田氏）

事業計画と個別支援計画は、一体の物として捉え、全職員が共通認識を持つ事でより高い水準の活動が出来ます。SELP 杜の活動がそのヒントとなればと思います。（寺下氏）

第6回 2014年 2月13日(木)

18:00 - 20:30

即
チャレンジ

実践のためのプランを立てよう②

講師：地域作業所 カプカプ 鈴木励滋氏／中小企業診断士 為崎 緑氏



内容

それぞれの現場の課題解決に向けたプランを作成し、実現性を確認してみましょう。

講師コメント

ビジネスの世界から学ぼう！
地域作業所は「障がい者の働き場」を確保しながら、報酬アップにつながる収益向上のための「製品の質の維持・向上」も必要とされるなど、難しい課題へのチャレンジが求められます。でも、利用者・職員・製品購入者の皆が幸せに感じられる仕組みづくりを目指すことが必ずよい結果を生み出すはず！一緒に考えてみましょう。（為崎氏）

interview

第2回
講師

スローレーベル
栗栖 良依さん
Yoshie Kuris

スローレーベルとは

2009年に始動した、横浜市内の福祉施設や企業とアーティストをつなげる「横浜ランデヴープロジェクト」から生まれ、販売に向けてレーベル化したものがスローレーベルとなりました。首都圏の百貨店などで催事出店を中心に商品を販売。市民参加のものづくりプログラムを「象の鼻テラス」などで展開しています。

企業と福祉の協働が生み出すもの

福祉施設だからと特別視することではなく、対等にできることを無理なくやるというスタンスで楽しくやっています。企業と福祉のコラボレーションで得られる効果は、単に売上だけではない。利用者が明るくなった、化粧をするようになった、施設に活気がでた、など利用者と施設の社会化につながっていると実感しています。



丸いオリジナル織り機を使って、いろいろな色と模様のまあるいファブリックが生まれます。

現場
拝見

1

地域作業所 カプカプ

横浜市旭区

アートはメンバーの個性
を活かすための手段の一つ



カプカプメンバー渡邊鮎彦さんの絵がデザインされた手提げバッグ。
エイブルアート・カンパニーの製品です。
<http://ableartcom.jp/alist.php>

第3・6回
講師



基礎データ

地域作業所 カプカプ

1997年 地域作業所として開所
2009年 NPO法人カプカプを設立、地域活動支援センターへ移管
メンバー：19名 1日15名位利用 20歳～60歳代 平均年齢34歳
職員：常勤職員2名、非常勤職員4名

現場
拝見

2

カフェベーカーリー ぶかぶか

横浜市緑区

上質へのこだわりと、
経営アドバイザーの協力



明るくかわいらしい内装のカフェでは、接客を中心とした仕事を障がいのある人が担当。

障がいのある人の魅力に取りつかれて、一緒に生きていきたいと思うだけ」店長の高崎さんは熱く語ってくれます。天然酵母パンのベーカーリーとパン食べ放題のランチは、まちの人たちに大人気です。「パンがおいしいだけでなく、彼らと接するとはっとする、といった付加価値があるから。」マーケティングは長年会社を経営した経験のある経営アドバイザーがバックアップしています。

基礎データ

カフェベーカーリー ぶかぶか

2010年 就労継続支援A型事業所として開所
2011年 就労継続支援B型事業所に移管
メンバー：20名 1日20名位利用 17歳～40歳代 平均年齢28歳
職員：常勤3名 非常勤12名